

現状・課題

高等学校における指導・学習にあたってのICTの活用の高い必要性

- ✓ 令和4年度の学力定着把握検査結果では、高校2年生のD3層の生徒の割合は21.7%となっており、3年連続で増加。

【資料1のP.3参照】

- ✓ 家庭学習をほとんどしない生徒の割合 (R4) は、2年生の1月で45.0%。

基礎学力の定着や学習習慣の確立、学習進捗にあわせた指導・学習のため、デジタル教材やスタディログ等を活用して、個別最適化を図ることが重要。

高等学校におけるICT機器の活用にむけた、さらなる学校・教職員の意識向上・指導力強化の必要性

- ✓ 「タブレット端末を学習に活用していない」と回答した生徒の割合は37.9% (R5.2)
- ✓ タブレット端末の持ち帰りを許可していない学校が、56.8% (R4.9)
- ✓ タブレットを授業外でも常時使用を可能としている学校は、30.2% (R4.9)
- ✓ 県立学校の教職員で月1回程度のみICT機器を活用している割合が30.0%

「日常的」な活用とは言えない状況であり、従来の授業に固執する傾向がある教職員へのICT機器の活用についての意識変革や、活用スキルに自信のない教職員への助言・支援に向けた取組を実施することが必要

今年度の取組

ICT教材を活用した個別最適化学習のさらなる実践・検証

AIドリルやデジタルノートの活用

- ・ 基礎学力の定着に向けた小中学校の範囲の学習等の学び直し
- ・ 学習履歴の管理等を通じて、自宅学習等の習慣化
- ・ スタディログの活用による教員の指導支援についての検証
- ・ ドリル機能や辞書機能を活用した個別最適化された学習の支援

AIドリル：20校23課程(生徒数2,623人)で実践
デジタルノート：10校10課程(生徒数3,023人)で実践

教職員の指導力強化、意識改革

各校のICT教育推進の人材育成

Google認定教育者レベルの取得研修等を通じて、各学校において取組を進める中核となる人材の育成

教職員の意識改革

効果的なICT活用に向けた研修や学校支援チームの訪問等を通じた助言・支援等を実施

今後の方向性・論点

次期教育大綱等の策定に向けて今年度、さらなる取組を強化するために検討を進めるポイント

スタディログの活用の検証等を踏まえ、県内の全ての高等学校等に個別最適化や学習進捗を踏まえた指導・学習が展開されるような取組の検討

教職員のICT機器の活用に対する更なる指導力強化・意識変革

：授業実践や生徒の課題把握にあたってICT機器の活用の有用性やメリットを整理して学校・教職員に提示

：情報・ICT担当の教員が、各学校内でICT活用の展開をしやすくなるようなノウハウ等を共有する研修等の実施

：教職員のICTの活用の意欲を促進するような、先進的な取組への顕彰等

学校や教育委員会において、紙媒体で教職員や生徒が実施をしている各種作業や取組等について、1人1台タブレット端末の活用等も含めたデジタル化への移行を検討

